

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

Japanese Patent Application Laid-open No. 5-55221

(57) [Abstract]

[Object] To house a keyboard 2 in the upper part of a main body 1 of a word processor or the like.

[Constitution] An arm shaped base 3 housed in the left and right corners of the upper part of the main body of word processor 1 or the like is retracted at the rear part of the word processor, and the keyboard 2 is mounted on the retracted arm shaped base and word processor main body.

[Scope of Claim for Utility Model Registration]

[Claim 1] A keyboard characterized by comprising: a first engagement part on one side of a rod-shaped member made of a material such as resin; a second engagement part and a cut-in part on the other side of the rod-shaped member; and an engagement spring provided so as to come into contact with a plane on which the cut-in part of the rod-shaped member is provided, wherein the engagement spring is fitted into the cut-in part to function to move sliding of the rod-shaped member, the rod-shaped member is stored in the left and right corners of the upper part of the main body of word processor or personal computer and the like, and the rod-shaped member is structured to be retracted from the rear part of the word processor or the like.

[FIG. 2] An appearance of a keyboard according to the present invention.

- 1 Word processor main body
- 2 Keyboard
- 3 Rod-shaped member
- 4 Connection cord
- 5 Display part
- 6 First engagement part
- 7 Second engagement part
- 8 Engagement spring
- 9 Cut-in part

[Operation]

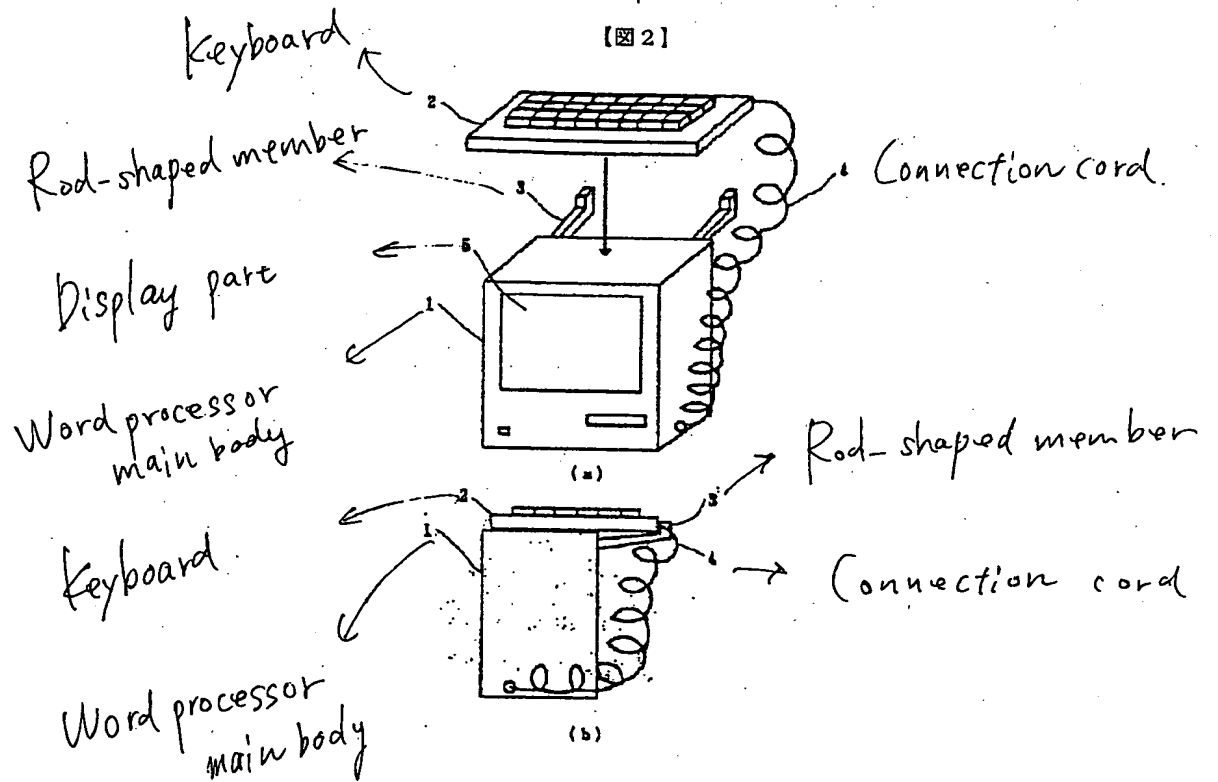
According to the above arrangement, an arm shaped base housed in the left and right corners of the upper part of a main body of word processor or the like is retracted to the rear part of a word processor, and a keyboard is mounted on the retracted arm shaped base and the word processor main body.

[Advantageous Effect]

As has been described above, in the present invention, when a word processor is not used, a keyboard is housed in the upper part of a word processor main body, and thus, the top of the desk can be cleaned and effectively used. In addition, when a rod-shaped member is housed in the word processor, the member is completely housed inside the word processor, and thus, there is provided a great effect that finer design is made.

FIG. 2

[2]



(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-55221

(43)公開日 平成5年(1993)7月23日

(51)IntCl.⁵

識別記号 庁内整理番号

FI

技術表示箇所

G 0 6 F 3/02

3 1 0 K 7165-5B

1/16

H 0 1 H 13/70

Z 7373-5G

7927-5B

G 0 6 F 1/00

3 1 2 V

審査請求 未請求 請求項の数1(全2頁)

(21)出願番号 実願平3-104993

(22)出願日 平成3年(1991)12月19日

(71)出願人 000006811

株式会社富士通ゼネラル

神奈川県川崎市高津区末長1116番地

(72)考案者 副島 信博

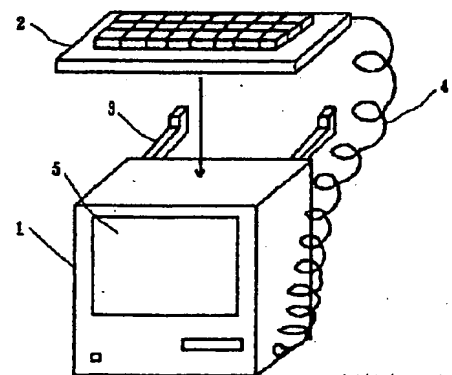
川崎市高津区末長1116番地 株式会社富士
通ゼネラル内

(54)【考案の名称】 キーボード

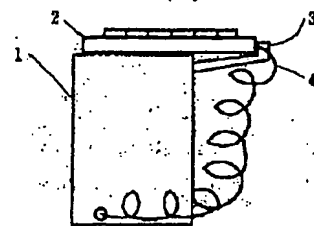
(57)【要約】

【目的】 キーボード2をワープロ等の本体1の上部に
収納する。

【構成】 ワープロ1等の本体上部の左右の隅に収納し
た腕状の台3をワープロの後部に引き出し引き出された
腕状の台およびワープロ本体にキーボード2を載せる。



(a)



(b)

1

2

【実用新案登録請求の範囲】

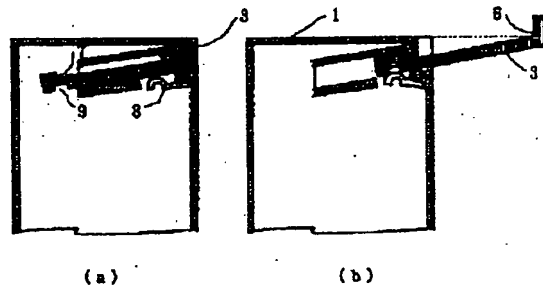
【請求項1】 樹脂等の材料で作成された棒状の部材の
 一側に第1係止部を設け、該棒状の部材の他側に第2係
 止部および切込部を設け、前記棒状の部材の切込部を設
 けた面に接触するように係止バネを設け、該係止バネは
 前記切込部に嵌まって前記棒状の部材の滑りを止める働
 きをし、前記棒状の部材をワードプロセッサまたはパー
 ソナルコンピュータ等の本体の上部の左右の隅に収納
 し、前記棒状の部材を前記ワードプロセッサ等の後部か
 ら引き出す構造にしたことを特徴とするキーボード。

10

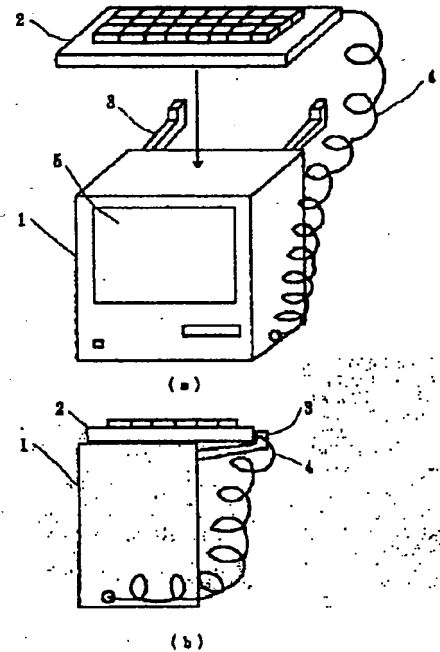
【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案のキーボードの一実施例を示す側部断面

【図1】



【図2】



図である。

【図2】 本考案のキーボードの外観図である。

【符号の説明】

- 1 ワードプロ本体
- 2 キーボード
- 3 棒状の部材
- 4 接続コード
- 5 表示部
- 6 第1係止部
- 7 第2係止部
- 8 係止バネ
- 9 切込部

【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、キーボードに係り、ワードプロセッサ（ワープロ）またはパーソナルコンピュータ（パソコン）等の入力用キーボードの収納方法に関する。

【0002】**【従来技術】**

従来、ワープロ、パソコン等の装置の入力用キーボードは使用しないときにはそのままの状態に放置しておくのが一般的であり、またはワープロ等の本体の前面部に収納する方式の装置がある。キーボードを使用しないときにそのままの状態に放置しておくことはキーボードが汚れやすく、机の上が有効に使用できない等の問題があった。事務机の上の整理・整頓、有効活用等の見地からキーボードをワープロ等の本体の上部に収納する方式が望まれていた。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

本考案は、上記従来の問題点に鑑みなされたもので、キーボードをワープロ等の本体の上部に収納する。

【0004】**【課題を解決するための手段】**

上記課題を解決するために本考案では、樹脂等の材料で作成された棒状の部材の一侧に第1係止部を設け、該棒状の部材の他側に第2係止部および切込部を設け、前記棒状の部材の切込部を設けた面に接触するように係止バネを設け、該係止バネは前記切込部に嵌まって前記棒状の部材の滑りを止める働きをし、前記棒状の部材をワードプロセッサまたはパーソナルコンピュータ等の本体の上部の左右の隅に収納し、前記棒状の部材を前記ワードプロセッサ等の後部から引き出す構造にしたことを特徴とするキーボードを提供するものである。

【0005】**【作用】**

上記構成によれば、ワープロ等の本体上部の左右の隅に収納した腕状の台をワ

ープロの後部に引き出し引き出された腕状の台およびワープロ本体にキーボードを載せる。

【0006】

【実施例】

本考案の実施例を添付図面を参照して詳細に説明する。図1は本考案のキーボードの一実施例を示す側部断面図、図2は本考案のキーボードの外観図である。

図1の(a)、(b)はワープロの側部断面図である。図において、1はワープロ、3は棒状の部材である。棒状の部材3はワープロ1の後部から内部に斜め下方にスライドする。棒状の部材3を引き出すと第2係止部7がワープロ1の溝の側部に当たってそれ以上引き出せなくなる。このとき係止バネ8が棒状の部材3の切込部9に嵌まり込み棒状の部材3を固定する。棒状の部材3を引き出したとき第1係止部6の付け根の高さはワープロ1の上面の高さと同じになる。棒状の部材3を少し強くワープロ1の内部に向かって押せば係止バネ8は切込部9から外れるので棒状の部材3はスライドする。棒状の部材3はワープロ1の内部に入っていく棒状の部材3の第1係止部6がワープロ1の筐体にぶつかって停止する。棒状の部材3の第1係止部6はワープロ1の外部に突出することなく完全に収納されるが、棒状の部材3の一部がワープロ1の外部に突出するように収納するような構造にしてもよい。

図2の(a)は斜視図で、(b)は側面図である。図において、1はワープロ本体で、5は液晶等の表示部、2はキーボード、4はキーボード2とワープロ本体1を接続するコードである。棒状の部材3はワープロ本体1の上部の左右の隅に通常は収納されており(図1の(a))、ワープロ本体1の後部より外側に引き出す。ワープロの使用が終了すると棒状の部材3をワープロ本体1から引き出し、キーボード2をワープロ本体1の上部および棒状の部材3に載せる。

【0007】

【考案の効果】

以上のように本考案においては、ワープロを使用しないときはキーボードはワープロ本体の上部に収納するので事務机の上は整理・整頓でき有効に使用することができる。また棒状の部材をワープロに収納するとワープロの内部に完全に収

納されるのでデザインがすっきりとなる等の効果は大きい。